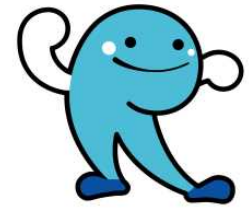
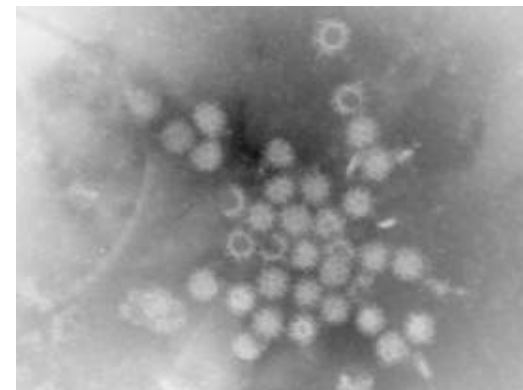


2 基礎編

2-1 ノロウイルスとは

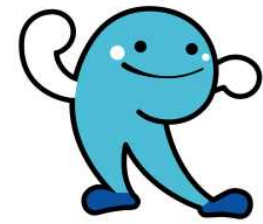


- 感染性胃腸炎を起こすウイルスの代表です。
- 排出ウイルス量
発症者 ふん便 1グラムあたり100万～10億個
おう吐物 100万個
非発症者 ふん便 100万個
- 100個以下といった少量で感染が occurs。
- 症状消失後数日、長いときは1ヶ月程度ふん便中に排出され続けます。



ノロウイルスの電子顕微鏡写真
(高知県衛生環境研究所撮影)

2-2 潜伏期・症状



- 潜伏期（感染後、症状がでるまでの期間）
通常24～48時間



- 症状

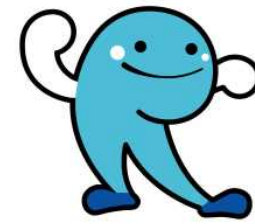
下痢、おう吐、発熱(38℃台まで)、腹痛

ほとんどが3日以内に回復します。

高齢者では、おう吐物が気管・のどに入って窒息・誤嚥性肺炎になることがあります、注意が必要です。

また、発病せずに、ふん便にウイルスを排泄していることもあります。

2-3 経路



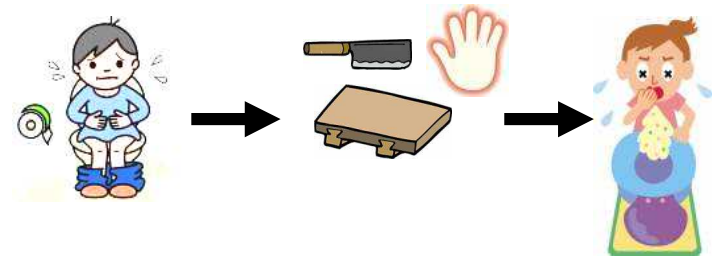
1 ヒト→ヒト

ノロウイルスに感染した人のふん便やおう吐物を処理した後、手指などにウイルスがついて口から取り込まれ、感染します。

また、おう吐物などが乾燥して舞い上がり、口から取り込まれて感染することもあります。

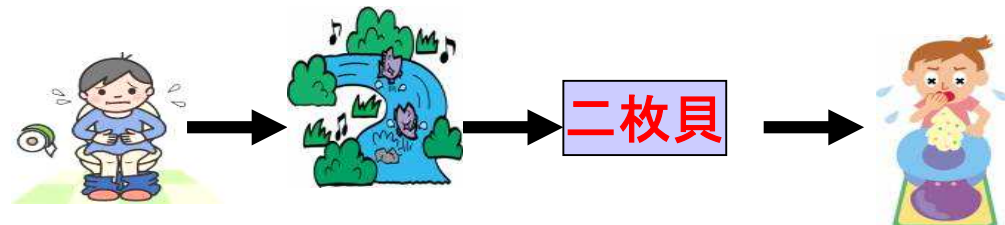
2 ヒト→(器具→)食品→ヒト

ノロウイルスに感染した又は汚染された物を触った人が十分に手洗いをしなかったため、直接又は器具などを介して食品が汚染され、それを食べたヒトが感染します。



3 食品→ヒト

感染者→下水→川・海→二枚貝の経路で二枚貝に取り込まれます。そのような二枚貝を加熱不十分の状態ですべて食べた場合に感染します。



2-4 発生状況

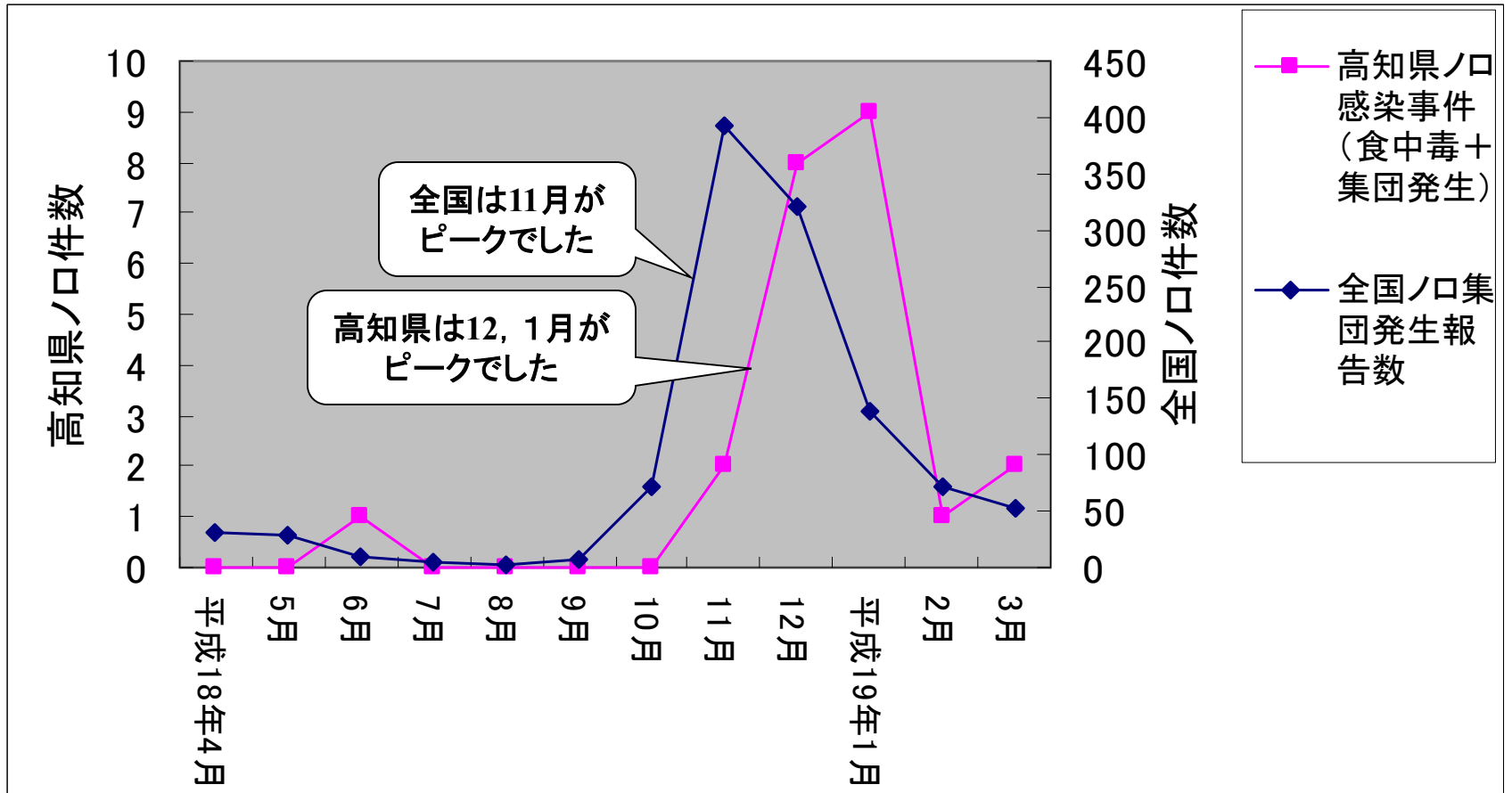
主な流行時期は 10月～4月ごろ(本県は11月～4月)ですが、それ以外の時期にも一年中患者は発生しています。

感染の拡大防止は、事前の対応が重要です。

また、最初におう吐・下痢の症状を有する人が現れたら、ノロウイルス感染を念頭に入れて対応しましょう。

2-5 発生状況 2

平成18年度の高知県と全国のノロウイルス感染集団発生件数等の比較



高知県ノロ集団発生報告数・・・高知県(高知市含む)のノロウイルス感染集団発生件数+同食中毒件数
 全国ノロ集団発生報告数・・・国立感染症研究所・感染症情報センターによる、地方衛生研究所報告(集団発生病原体票)の集計結果

2-6 感染症流行情報

(県感染症情報センター(県衛生環境研究所内))

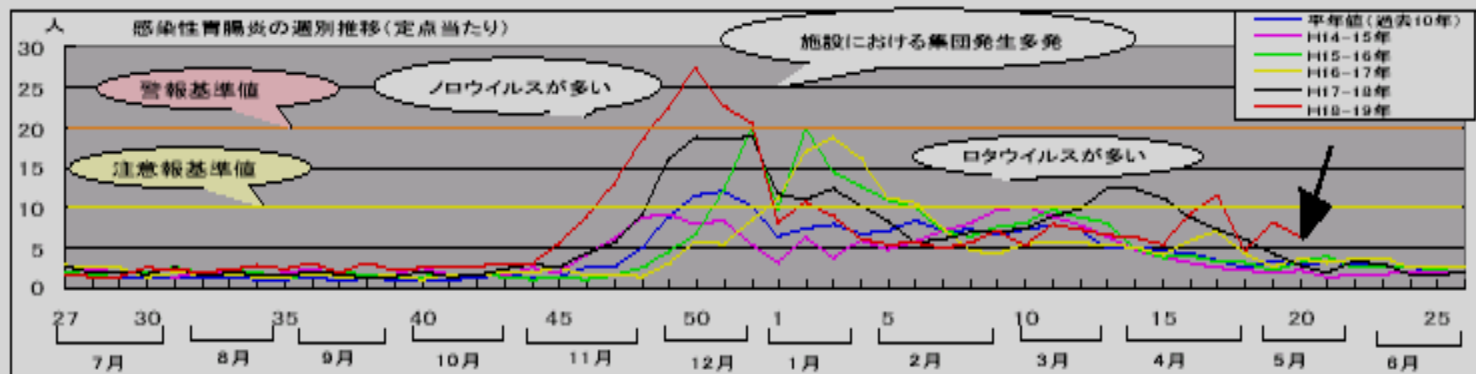
県衛生環境研究所はホームページ上で感染症流行情報を提供しています。

感染性胃腸炎の流行状況を確認し、ノロウイルス対策に役立ててください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2022011300069.html>

感染性胃腸炎 (注意報値: 10.00 警報値: 20.00)

総数は減少したが、依然、例年より高い報告が続いている。中央西以西で増加し、特に中央西で注意報値を超している。今週はRotaの他にAstoro, sapo virus, Campylobacter jejuniが検出されている。



感染症流行情報(週報・一部抜粋)